

インターバンクの声（2017年11月24日）

一昨日のニューヨーク市場の朝方に発表された10月の米耐久財受注は、市場予想よりも大幅に落ち込んだ。その後、午後に発表された10/31、11/1開催分の米FOMC議事要旨で、一部のメンバーが利上げに慎重な見方をしていることが分かり、ドルが主要通貨に対して売られた。ドル円はニューヨーク市場終盤には111円割れまであと10銭余りの水準まで円買い・ドル売りが進んだ。

続く昨日のアジア市場は、感謝祭の祝日で東京勢が不在、ニューヨーク市場も為替部門は事実上休場状態で、111円を割ることなく111円08銭から111円38銭までの小幅なレンジ内取引を続けたまま週末の東京市場に戻ってきた。米10年国債利回りも徐々に2.3%を割り込みそうな水準まで低下し、米FOMC議事要旨から今後の利上げペースが緩やかにとどまるとの観測が再び台頭したこともあり、簡単にはドルの反発は期待し難い状況だ。少し前までは個人投資家や輸入勢を中心に、110円台ではドル買い意欲が強いとされていたが、ドルの打診売りに動いた際にこうしたドル買いに遭遇しなければ、円高が想定外に進むかもしれない。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。